

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2001. 5

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 205

日本野鳥の会 埼玉県支部

谷津干潟の教えてくれること

杉本秀樹(習志野市)

1997年4月14日は長崎県諫早湾が締め切られた日です。以来、その日を「干潟を守る日」とし、毎年、4月から5月にかけて全国で干潟・湿地の保全をアピールする活動が展開されています。

そこで今月号は、干潟大好き、そして大好きなあまり干潟のある習志野市に居を移したとも噂されている杉本さんに、守られた干潟はどうなるのか、その実例を「谷津干潟」について語っていただきました。

保護運動の思い出

300人も集まっての探鳥会なんて想像し難いですが、谷津干潟の保全をめざして関東ブロック合同でやったのです。干潟をほとんど3分の1周するくらい取り囲んで、あーだ、こーだ言いながら、お昼には千葉県支部の心づくしのアサリ汁をごちそうになりました。あれから13年。国設鳥獣保護区に指定されたのを皮切りに、'93年にはラムサール条約の登録地となり、'94年には自然観察センターがオープンしました。

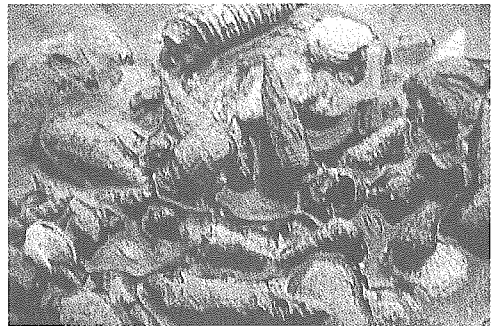
ゴールはスタートだった

ヒメクビワカモメが出現したときの来観者数は記録的だったそうですが、観察センターの仕事はバードウォッチャーの受け入れだけではありません。地主(?)の環境省や千葉県との連携のもと、日本全国のラムサール条約登録地の統括的な仕事もしています。

また、渡り鳥の保護を目的としたシギ・チドリ類渡来地ネットワークやガン・カモネットワークなどの国際交流が進められていますが、これもセンターの仕事の一部です。



お話を聞いたセンター職員の井浦宏司さん(左)とレンジャーの芝原達也さん(右)



ホソウミニナ

習志野市が市の予算を使ってこのような仕事にかかわるのに欠かせないのは、市民の理解だそうで、私たちの運動の積み重ねが社会に浸透しているからこそ可能になったといえるでしょう。もちろん、干潟の掃除を続けてきた森田さんなどのグループの活動も見逃すことはできません。

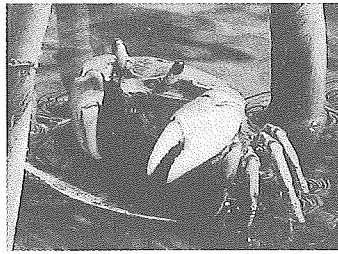
保護のための運動のゴールは、行政と市民が協力して新たな活動を始めるスタートだったのです。そして、その間を取り持っているのは、今でも NGO の重要な役割です。谷津干潟では習志野市と日本野鳥の会の本部や千葉県支部など9団体からなる保全交流会が開かれ、相互の意見の交換が行われています。

また市民に開かれた行政という点から、大勢の市民ボランティアが活躍しています。習志野以外の地域からの参加者も多く、埼玉県支部会員の中でも参加されている方もいます。

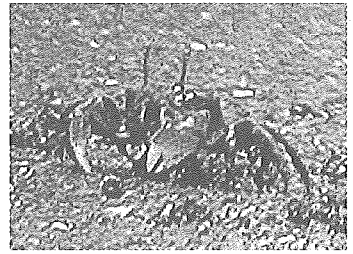
毎年6月に行われる「谷津干潟の日」の記念行事は、企画から運営まで市民による実行委員会が取り仕切っています。絵画や写真などの作品展、シンポジウム、観察会、イベントなど多彩な催しがあって、不肖私も今年の実行委員に加わっています。



クロベンケイガニ



アシハラガニ



コメツキガニ

このように保護運動と行政とのかかわりを見ていると、湿地を守ってきた先覚者の意志を受け継いだ住民の存在が不可欠だということがわかります。行政の理解は、有志に活動の場を提供するという形で反映されます。やはり、住民の熱意とそこに住む人々の連帯が自然保護の原動力であることに変わりはありません。

環境教育への取り組み

次の世代への橋渡し、すなわち環境教育の取り組みもセンターの重要な仕事です。習志野市内の16の小学校の4年生はリサイクルプラザと谷津干潟を見学していて、谷津では干潟の生き物について学んでいるそうです。干潟は重要だから保護されて当然という教育を受けた生徒さんたちが育っているのですね。平成14年度からは、福祉などと並んで渡り鳥についての授業が「総合的な学習の時間」に取り入れられるとのことで、環境省と提携してプログラム作りが今進められているそうです。

昨年の「谷津干潟の日」の観察会で子供達を連れて干潟に降りた時のことです。一匹のクロベンケイガニを取り囲み、脚に生えている剛毛を見つめている子供達の真剣な眼差しは忘れられません。大きなアシハラガニをつかまえてヒーローになった少年や、どうしても生きたミズクラゲに触りたくて靴を濡らしてしまった少女の姿などは、ボランティアにとって希望の象徴です。

干潟の自然の移り変わり

さて肝心の谷津干潟ですが、保全が決まってからも少しずつ変化が見られます。それまでは生活排水が干潟に流入していたのが下水道が整備され、干潟の塩分濃度が海と同じに

なっていて、海藻のアナアオサが繁茂するようになりました。また潮の干満によって泥が流出して、特に干潟の東側部分が砂質化してきました。一時は底生物が減少してきて心配したのですが、自然の力の巧妙さを見せつけられる結果になったのです。

アオサはヒドリガモの好物ですが、夏にはいないので茂るばかりでしたが、ヒメハマトビムシというノミのような虫が発生して、このアオサを食べ、その虫をキョウジョシギなどが餌にしています。腐ったものはミギワバエの幼虫の餌になります。億にも達するさなぎの殻に驚かされました。

一昨年の春、劇的な変化がありました。ホソウミニナという巻き貝の大発生です。ウミニナは埋め立ての時に絶滅して、東京湾の奥からは姿を消していましたが、別の種類が谷津干潟に定着したようです。いまでは1㎡に百匹ほども見られ、干潟の表面にすじをつけて動き回るので、ヤドカリと区別できます。砂質化した場所にはコメツキガニが住み着いて、小さな砂団子を盛んに作っています。

おそらく元来は砂質の干潟だったのが、周辺の埋め立てによって泥が流れ込み河口干潟に近い生態系が形成され、それが徐々に元の姿に復活しているのではないのでしょうか。

おわりに

諫早の状況は国政レベルで流動的な要素が見えてきました。社会情勢が変化していく中で、私たちNGOの運動は目には見えないけれど社会の水底のゆっくりとした流れとなって確実に水かさを増しています。

谷津干潟が見せてくれた自然の力と呼応して、日本の自然を復活させる「人間の力」を信じたいものです。

2000年秋 埼玉県 タカの渡り調査

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

はじめに

9月18日から22日、台風一過、この秋始めでの移動性高気圧におおわれ晴天が続きました。本調査は23日から25日に行われましたが、移動性高気圧通過後の気圧の谷と重なったため、少ない観察数となりました。

調査結果

本年も県内のタカの渡りの主要ルートである丘陵地帯と低山地帯の境付近、JR八高線

周辺に三ヶ所の調査地（表1）を設けました。23日から25日の種別の観察数（表2）、渡りの方向と推定ルート（表3）、1986年からのサシバの渡りの数（表4）を示します。

おわりに

23日から25日の3日間、10名以上の会員の皆様のご協力を頂きました。誠にありがとうございます
小荷田行男

表1 調査状況

調査地	標高	調査者	調査日と調査時間	天候
鐘撞堂山山頂 (寄居町)	330m	後藤康夫 他3名	9/23 8:30~12:00	雨
		後藤康夫	9/24 8:30~13:00	曇のち晴
		和田康男	9/25 9:00~12:10	晴
世界無名戦士の墓 (越生町)	160m	森本國夫	9/23 9:15~10:15	曇のち雨
		森本國夫	9/24 9:50~13:00	曇のち晴
天覧山山頂 (飯能市)	190m	佐久間博文 他5名	9/24 8:40~14:00	曇

表2 タカの渡りの種別観察数

調査地	調査月日	ハチクマ	トビ	オオタカ	ハイタカ	ノスリ	サシバ	チュウヒ	ハヤブサ	チゴハヤブサ	ツミ	タカSP
鐘撞堂山	9/23	1	1	1								
	9/24	1	5	1								
	9/25	1	2	6								
世界無名戦士の墓	9/23						1	1				2
	9/24											
天覧山山頂	9/24	1		2		1	1				2	

表3 タカの渡りの方向と推定ルート

調査地	主な渡りの方向	渡りの推定ルート
鐘撞堂山山頂	北東→南西	釜伏山方向へ
世界無名戦士の墓	北→南	?
天覧山山頂	北東→南西	

表4 各年の調査日におけるサシバ渡りの数

年	月	日	天候	金神	鐘撞堂	掛山	堂平山	丸山	世界無名戦士の墓	物見山	白金平	高指山	天覧山	郷の内	浦見	相沼
1986	10	5	晴	-	6	-	-	-	-	-	-	52	-	-	-	-
					9/23 31											
1987	10	4	快晴	-	4	-	-	-	28	-	149	-	-	-	-	-
					9/23 31											
1988	10	2	曇	-	10	-	-	-	19	0	1	-	-	-	-	-
					10/1 137											
1989	10	1	晴	-	25	-	-	-	100	14	79	150	-	-	-	-
					9/23 165											
1990	10	10	快晴	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
					9/23 19											
1991	9	29	晴のち曇	13	34	-	-	-	29	-	21	151	-	-	-	-
1992	9	27	快晴	7	21	6	-	-	10	-	-	31	17	-	-	-
1993	9	26	快晴	-	19	45	-	-	3	-	-	73	0	-	-	-
1994	9	25	晴のち曇	-	15	0	-	-	0	-	-	30	-	-	-	-
											10/2 122					
1995	10	1	晴	-	0	0	-	-	57	-	-	89	-	14	-	-
1996	9	29	晴	-	0	-	-	-	1	-	-	4	-	-	-	-
									9/22 5					9/28 238		
1997	9	28	快晴	-	3	9	10	-	1	-	-	30	-	-	-	-
1998	10	4	晴	-	0	-	3	-	2	-	-	18	-	-	-	-
1999	9	19	晴	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
					9/23	曇	-	18	-	1	-	34	-	-	160	-
					9/26	晴	-	3	-	5	-	3	-	-	21	-
2000	9	23	雨	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-
					9/24	曇のち晴	-	0	-	-	1	-	-	-	1	-
					9/25	晴	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-

注：（ ）は各年における最大値とその観察日

県内野鳥記録の追加情報

日本野鳥の会埼玉県支部野鳥記録委員会

●ユキホオジロ

分類 スズメ目ホオジロ科ユキホオジロ属

学名 *Plectrophenax nivalis*

英名 Snow Bunting

3月13日付け読売新聞東北版によれば、3月4日に本庄市坂東大橋下でユキホオジロが観察され、8日に写真撮影されたとのこと。

紙面の写真からもユキホオジロと同定可能であり、信頼すべき媒体に公表されたものであることから、県内初として記録することにした。308番目の追加。

●シロエリオオハム

分類 アビ目アビ科アビ属

学名 *Gavia pacifica*

英名 Pacific Diver

3月21日付け埼玉新聞などによれば、2月25日に浦和市下山口新田の芝川第一調整池で、埼玉県生態系保護協会川口鳩ヶ谷支部主催観察会参加者が発見し、写真とビデオで撮影したとのこと。

紙面写真だけからの同定は困難であるが、脇腹に白い大きな白斑はなく、かつ信頼すべき団体が信頼すべき媒体に公表したものであ

ることから、県内初として記録することにした。309番目の追加。

●ハマヒバリ

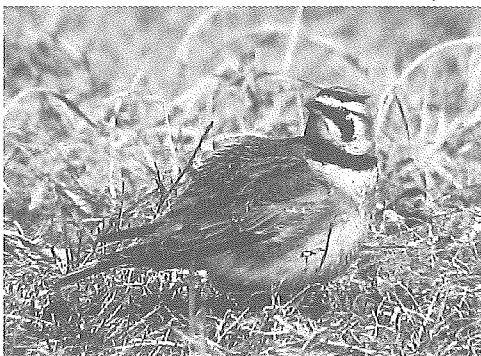
分類 スズメ目ヒバリ科ハマヒバリ属

学名 *Eremophila alpestris*

英名 Horned Lark または Shore Lark

2月初めから三郷市内の江戸川河川敷内野球グラウンドと対岸の千葉県松戸市を行き来しているハマヒバリ1羽が継続観察され、27日(火)に海老原美夫副支部長がビデオ撮影、ほかにも多くの人が撮影した。

1988年12月に吉川市内で観察されて以来2回目の記録。



鳥獣保護行政担当機関の連絡先

12ページ「連絡帳」欄でもご紹介した「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン。

拾ってきてしまってもうもとに戻せない状態で相談を受けて困ったり、傷病野鳥を保護した時の相談先電話番号は、

埼玉県庁自然保護課野生物担当

048-830-3154

中央環境管理事務所 048-822-5199

西部環境管理事務所 0492-44-1250

秩父環境管理事務所 0494-23-1511

北部環境管理事務所 0485-23-2800

東部環境管理事務所 0480-34-4011

傷病野生鳥獣保護診療機関(ボランティアの獣医さん)の紹介も受けられます。

治療終わってもすぐには放鳥できない状態のときは、長期に面倒を見るボランティア、「里親制度」というものもあります。その里親も紹介してもらえます。

野鳥の会では、残念ながらヒナも傷病鳥も引き取れません。支部事務局にさまざまに相談をいただいた場合は、やはりこれらの電話番号をご紹介します。

あこがれの銚子港探鳥会に参加して
藤澤洋子 (志木市)

以前からカモメ類基本8種を覚えたいと思い今回念願叶い銚子港探鳥会に初参加出来ました。まず幼鳥は無視して、成鳥のみを観察する事に決めました。朝からの雪、船橋海浜公園で雪の中浜辺にずらりハマシギの列。その中にシロチドリ、可愛いミュビシギと嬉しいスタート。波崎新漁港では、風と雨の中港内コンクリート上にカモメが勢揃い。シロカモメ発見。感激していると“トウゾクカモメ”

との声。スプーン状の尾羽を確認出来て満足。千人塚・地藏堂でハイロウミツバメ出現。早目に宿に着き、海辺の部屋で少し観察後、夕食に舌鼓。鳥の写真を拝見して就寝。翌朝晴天。早朝宿周辺探鳥。アオジ、アカハラなどを見て何故かホッとす。朝食後、銚子港へ。カモメ6種に加えシノリガモ、ウミスズメ、弱っていたハイロウミツバメをじっくり観察。再度珍鳥を求めて波崎へ。期待の鳥は出ず、一路、犬吠埼へ。海岸沿探鳥でハギマシコの群に出逢い、大満足の探鳥会でした。

桜梅桃李

陶山和良 (浦和市)

「めでためでたが重なるときは、鶴がお門に巣をかける。」 祝い歌の鶴は、どうやら掛け軸等に描かれている松にとまる番の丹頂がイメージされているようだが、6年ぶりに訪問した鶴の飛来地、鹿児島県出水市には、今年は13,521羽ものナベヅル、マナヅル等が来ていた。万という数は騒然とした群れである。その中から、1羽のソデグロヅル、2羽のカナダヅル、4羽のクロヅルを探そうと力が入ったツアー仲間であったが、何のことはない。到着早々、目の前の群れにいる真っ白いソデグロヅルを発見し、ほっとした。あとの2種類は、なかなか見つからない。時が経つにつれて48個の目にはあせりと諦めのムードが漂

い始めた。

しかし、さすが執念の仲間はすごい。タイムリミット直前に2種とも発見したのである。感動の高まる中で、日暮れを迎えた。私にとっては、ターゲットの鶴の他に、ホシムクドリ、クロツラヘラサギ、カラフトワシ等々と思わぬ出逢いがあり、一ぺんに11種も増える感きわまりない大収穫であった。中には1種も増えない人、いや数ではない新しいバーダーとの出逢いや語らいが楽しいのだという人もあり、人それぞれ人生観が異なるように目的も違う。それでいいのだ。あたかも、桜は桜の美しさ、梅には梅の良さがあるように、桜、梅、桃、李、それぞれの美しさを満開させ春を荘厳とさせるがごとく……自分流に満足することができればと思った次第である。



岩槻市文化公園 ◇11月25日、アリスイ。12月17日、23日、ルリビタキ♀。2月3日、ベニマシコ♀。2月5日、アカゲラ（山田由紀子）。

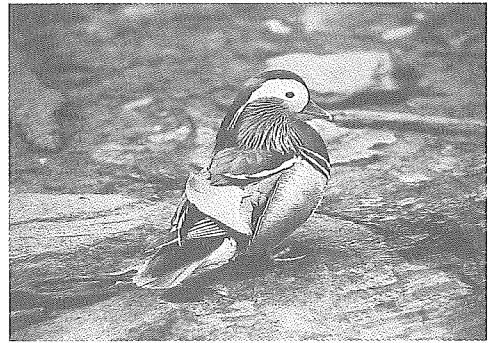
浦和市南部領辻 ◇1月26日午後2時、見沼用水東総持院前の水田でタゲリ4羽とタシギ1羽、50m位先で肉眼でもよく見えました。近くの自然トラストでカワセミ1羽。先週も同じ所にタゲリが2羽いました（山原忠雄）。

浦和市別所沼公園 ◇2月19日、ホシハジロ40羽、キンクロハジロ22羽、カルガモ14羽、オナガガモ10羽（陶山和良）。

戸田市道満彩湖 ◇2月1日、オオセグロカモメ1羽。2月3日、11日、カリガネ1羽。2月18日、トモエガモ♂2羽（高橋達也）。

秩父市羊山公園 ◇1月2日、アトリ、キクイタダキ、アカゲラ。1月3日、アトリ15羽以上、ベニマシコ♂♀、カシラダカ、カケス、アカハラ。1月6日、アオゲラ鳴く。1月7日、ルリビタキ♂。2月1日、トラツグミ2羽、マヒワ30羽以上、アトリ多数、ショウビタキ♂2羽。2月2日、アオゲラ鳴く。2月3日、エナガ多数、マヒワの群れ。2月4日、アトリ多数、ヤマガラ、シロハラ、アカゲラ。2月11日、トラツグミ、シロハラ2羽、ベニマシコ♂♀、アトリの群れをタカが追いかけていた。2月17日、ハヤブサ、ルリビタキ♀、イカル。2月18日、ルリビタキ♀、アトリ多数、マヒワ多数、アオゲラ、エナガ、シロハラ、アカハラ（山岸昭治）。

坂戸市城山 ◇1月1日、山中2ヶ所でルリ



オシドリ（山内 元）

ビタキ♀各1羽。エナガ20羽程が枝から枝へいそがしく移って行った。ドラミングの響きに目をやると、アカゲラ♂1羽。1月11日、アオゲラ♂1羽、ルリビタキ♂2ヶ所で各1羽。1羽は尾羽根の先が白い個体でした。ルリビタキ♀1羽、シロハラ1羽が地上で採餌していた（増尾隆）。

坂戸市入西調節池 ◇1月9日、ヨシガモ♂2羽、ミコアイサ♂♀各1羽、キンクロハジロ♂♀8羽。当地では珍しいユリカモメ16羽。近くの鉄塔にハヤブサ1羽（増尾隆）。

東松山市都幾川 ◇2月17日、稲荷橋周辺でカシラダカ約120羽、アオジ約20羽、シメ3羽。例年シメ、カシラダカともに70~100羽前後の群れが観察できる場所だが、今年はシメが大変少ない。クサシギ1羽、イソシギ1羽、イカルチドリ5羽、カワセミ1羽（後藤康夫、北村隆、澤井清）。

東松山市物見山 ◇2月17日、シメ、シロハラ、イカル、カシラダカ、アオジ、ノスリ、エナガ、ヤマガラ、ルリビタキ♂1羽♀4羽（後藤康夫、北村隆、澤井清）。

皆野町美ノ山公園 ◇2月18日、ウソ5羽、ホオジロ、エナガ（山岸昭治）。

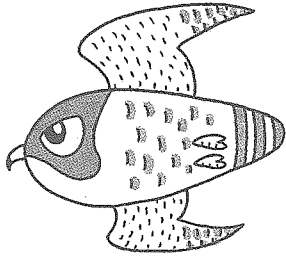
表紙の写真

タマシギ（チドリ目タマシギ科タマシギ属）

撮影：菱沼一充（板橋区） 沖縄県大宜味村喜如嘉にて。

沖縄まで出かけてタマシギを撮ってきてどうするんだと言われそうですが、近場では運が悪くて、あまり出会う機会がありません。あまりにも撮ってくださいとのポーズに思わず激写しました。前で堂々としているのが奥様で、後ろに控えめにいますのがダンナ様！まるで、どこかの夫婦だと言わないで（ちなみに我家ではありません）。

行事あんない



(何森 要)

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(土・祝)

集合：午前9時30分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和8:34→南浦和8:37→南船橋9:26着。

担当：杉本、手塚、長谷部、菱沼(一)

見どころ：4月末に続いてのその2です。午前中の潮は今回の方が適しています。一年中で谷津干潟が最も華やぐ季節です。ゆったりとした気分で一日を過ごしてみませんか。

長野県・白馬山麓探鳥会(要予約)

期日：5月12日(土)～13日(日)

定員に達しましたので締め切りました。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月13日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車。

担当：和田、森本、中里、倉崎、松本、高橋、後藤、藤田

見どころ：5月と聞いただけで野山を歩きたくありませんか。吹く風にも何となく花の香りがします。アシ原ではオオヨシキリが騒々しく、失礼!、声高らかに恋の歌を歌っています。ツバメもやって来ました。そんな大麻生へお出か

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

ください。

栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：5月16日(水)

集合：16日午前7時、JR大宮駅西口代々木ゼミナール前。

交通：往復とも貸切バスを利用。

帰着：当日午後5時頃を予定。

費用：4000円の予定(バス代、高速料、保険等)万一過不足の場合は当日精算。

定員：20名(先着順、県支部会員優先)

申し込み：普通葉書に住所、氏名、年齢、電話番号を明記して、中村榮男(〒

1)まで。

担当：中村(榮)、中島(康)、櫻庭、高(文)

見どころ：若葉のすばらしい奥日光。コルリ、キビタキ、コサメビタキ、ノビタキ、ホオアカなどの、あの可愛い姿を求めて、湯の湖から湯川沿いに戦場ヶ原を経て、赤沼までの約7kmを歩きます。昼食の用意と雨具は忘れずに。

『しらこぼと』袋づめの会

期日：5月19日(土)午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

案内：出来たばかりのフレッシュな『しらこぼと』の発送作業をお手伝いいただく会です。今月の作業後のお楽しみは、ゴールデンウィークの成果を収めたビデオででしょうか?

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月20日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、清水、小菅

見どころ：今年は厳しい冬だった。だから新緑の色合いは嬉しい。田植えの終えたたんぼがきれい。初夏のさわやかな風に乗ってカッコウがなく。芝川ではバンやカルガモが子育てを始め、オオヨシキリの鳴き声が皆さんを呼んでいる。さあ三室へおいで下さい。

加須市・はなさき公園探鳥会

期日：5月20日（日）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花咲駅南口、または午前9時はなさき公園駐車場

交通：JR宇都宮線大宮8：01→久喜8：22着にて、東武伊勢崎線春日部8：14→久喜8：28発に乘車、花崎8：39着。

担当：中里、玉井、長嶋、田中、田村、宮下
見どころ：初めての探鳥地として3月に登場したのですが、天候不順で中止。今回は夏鳥を、ゆっくりと歩きながら探してみましよう。私達の身近なところで何種類ぐらいの鳥がいるのでしょうか。はじめてバードウォッチングを始める方大歓迎です。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）

期日：5月26日（土）～27日（日）

集合：26日午前9時10分、長野駅コンコース新幹線改札を出て右側

交通：「あさま551号」（東京7：00→大宮7：26→熊谷7：40→高崎7：54→長野8：50着）、または「あさま1号」（東京7：32→大宮7：56→長野8：57着）

費用：11,000円の予定（1泊3食、現地バス

代、保険料等）。万一過不足は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、県支部会員優先）

申込：往復葉書に住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、菱沼一充

ま
で。

担当：菱沼、北川、藤掛、中里

見どころ：キビタキ、オオルリ、クロツグミ、クロジなどのエンターティナー達が美声を競い合います。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。

時刻表3月号でチェック済です。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月27日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：42発、所沢8：36発に乘車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、石光

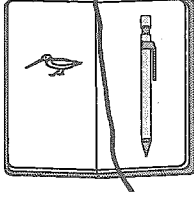
見どころ：新緑の野山を歩きながらふだん忘れている土の感触を確かめつつ、元気にさえずる小鳥たちに会いにいこう。

◆6月の行事予定

6月3日（日）北本市・石戸宿定例探鳥会
さいたま市・民家園周辺定例探鳥会（差間コース）



セッカ（菱沼一充）



行事報告

1月21日(日) 浦和市 三室地区

積雪のため中止。

1月27~28日(土~日) 千葉県 銚子港

参加: 22人 天気: 27日=雪後雨 28日=快晴

カイツブリ ハジロカイツブリ アカエリカイツブリ カンムリカイツブリ ハイイロウミツバメ カワウ ウミウ ヒメウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ シノリガモ ウミアイサ ノスリ オオバン シロチドリ ダイゼン ハマシギ ミユビシギ イソシギ トウゾクカモメ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ワシカモメ シロカモメ カモメ ウミネコ ミツユビカモメ ウミスズメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ イソヒヨドリ アカハラ ツグミ ウグイス メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ハギマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (55種) 低気圧の通過に伴う降雪の中、バスは出発。船橋海浜公園での、雪の浜辺の探鳥はなかなか風情が、なんて……。銚子方面は雪はなかったが風波ともに強い。こんな日にはと期待したとおり、トウゾクカモメやハイイロウミツバメが飛び回って、何しろ旅館の窓からも見られるという珍事態(?)。翌朝、休んでたり落鳥してたりするハイイロウミツバメを目にして、自然の厳しさをあらためて実感する。犬吠埼の灯台下では30羽ぐらいのハギマシコを見つけて、最後まで盛り上がった。(榎本秀和)

1月28日(日) 千葉県野田市 清水公園

参加: 16人 天気: 晴

ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ オナガガモ オオタカ イカルチドリ クサシギ イソシギ タシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハ

ラ シロハラ ツグミ ウグイス シジウカラ メジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 前日の雪が凍結。転倒事故など心配しながらの出発だったが、事故もなく無事終了した。普段はなかなか見ることのできなかったビンズイ、オオジュリン、イカルなども数多く出現。参加人数も少なく、ゆっくりと時間をかけて見ることができ、満足してもらえた探鳥会だったと思う。(中村榮男)

1月28日(日) 狭山市 入間川

参加: 13人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ タカsp バン イカルチドリ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ ヤマガラ シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (47種) 入間川で降雪後の探鳥会というのは今回が初めて。転倒事故や鳥が出てくれるかどうかを心配しながら恐る恐る歩き出した。河原ではカモ8種、カワセミ、バンなど思ったよりも鳥が多い。稲荷山公園は今までが一番おもしろかったのではないだろうか。雪のない木の下には、ビンズイが集まり、カケスも地上で餌探し。運のいい人はルリビタキのみまで見られた。おまけに、シロハラにつつかれたトラツグミが落とした羽を全員でお土産にするという幸運にも恵まれ、皆満足顔で帰路についた。(長谷部謙二)

2月4日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 40人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ オオタカ キジバン オオバン タシギ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 冷たい風が吹いて底冷えする中を元気に出発した。今年は気温が低いのか、例年なら咲いている梅、ヒメオドリコソウなどの花があまり見られず残念であった。しかし、いつもの鳥たちは顔を見せてくれ、中でもオオタカの成鳥と若が何度も空を賑わせてくれたことで満足して終了。(玉井正晴)

2月4日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 38人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ チョウゲンボウ キジ クイナ バン コチドリ タゲリ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 差間コース工事のためヘルシーロードコースに変更。強く吹いていた北風もおさまり、午後2時からスタートであったが、コース途中ではたくさんの鳥たちが迎えに来てくれた。アカハラ、クイナなどなかなか姿を見せてくれない鳥たちをじっくり観察でき、この日の目玉のタゲリも少ない時間であったが見ることができ、楽しい午後のひとときを送ることができた。(手塚正義)

2月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 37人 天気: 晴

カワウ トビ オオタカ ノスリ タカsp キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ

カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 下見でアトリが確認された野鳥の森へ。森の入口で予定どおりアトリに出会う。近くでオオタカのつがいが鳴き交わす声が聞こえ、繁殖の準備が進んでいるようだった。草原に出るとノスリとハシブトガラスが仲良く並んで木にとまっていて、みんなの笑いを誘っていた。上空にはオオタカ、タカspが舞い上がり、池の周りでは、シメ、アトリの他にミヤマホオジロのオマケが付く、久々に満足感を味わった探鳥会だった。(和田康男)

2月12日(月、振休) 上尾市 丸山公園

参加: 55人 天気: 晴後曇

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ トビ コジュケイ シギsp キジバト トラフズク アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 前日より一段と寒い朝。しかも早朝。55名もの参加者でスタート。始まってすぐ、アオゲラのピーヨ、ピーヨという声。いた！ 餌を食べるのに必死だったのだろう、全員じっくり見られた。その後、アトリの15羽の群れが何度も出てくれた。トラフズクにも会えたとし、早起きは三文以上の得だった。(高 文子)

2月15日(木) 戸田市 彩湖

参加: 43人 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ トビ オオタカ チョウゲンボウ キジバン オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ シジウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 朝のうちは冷え込んだが、すっきりと晴れて遠く富士山を見ながら湖岸に行く。少々風があったが、トビ、オオタカ、チョウゲンボウと出て、納得の3時間だった。

(倉林宗太郎)

連絡帳

●「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

今年も恐怖の誘拐シーズンが近づいています。と言っても、野鳥のヒナの話。

地面に降りている巣立ちヒナを、「保護」して拾ってきてしまうと、親鳥にとっては、立派な誘拐になってしまいます。まだ弱々しく見えるヒナでも、そのままにして、早くそこから離れてください。人がそばにいと、親鳥が近づけません。詳しくは、本誌昨年 5 月号特集記事でご紹介したとおりです。

今年も環境省の後援を得て、(財)日本鳥類保護連盟とともに、「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンを実施します。

●普及活動

昨年 11 月 19 日(日)から本年 3 月 18 日(日)まで 5 回にわたって蓮田市中央公民館のバードウォッチング教室が開かれ、中島康夫支部長を中心に、松井昭吾顧問、玉井正晴・中村榮男・吉安一彦幹事、田中幸男・長嶋宏之リーダーの 7 名が指導に当たりました。

坂戸市「ふるさとの川高麗川を考える会」の野鳥観察会は 3 月 25 日(日)で 11 回目を迎え、増尾隆・黒木昭雄・坂口稔・坂口和子各リーダー会員らが指導しました。

●編集部への原稿と野鳥情報

- 1, 不慣れなこともあって、eメールによる情報がスムーズに担当者に届かなかったこともあります。徐々に効果を発揮しています。これからもよろしく。
- 2, ある野鳥情報につき、「その時そこにはそういう野鳥はいなかったはず」というクレームが寄せられました。しかし、「いなかった」という証明は難しいでしょうし、本誌

「野鳥情報」欄は、会員からの情報を基本的にはそのまま載せる欄です。よろしく。

●お詫びします

3 月 24 日(土)日光東照宮裏山探鳥会の交通案内が大幅に間違っていました。担当幹事が次の快速が到着する 1 時間後まで東武日光駅前でお待ちしましたが、途中であきらめて帰った方もおられたでしょう。本当に申し訳ありませんでした。

●5月の事務局 土曜と日曜の予定

- 6 日(日) 編集部会議。シラコバト見つけ隊。
- 12 日(土) 6 月号校正。
- 19 日(土) 袋づめの会。
- 20 日(日) 役員会議。

●会員数は

4 月 2 日現在 2,847 人です。

活動報告

- 3 月 8 日(木) 普及部便り発送(海老原教子、楠見文子)。
- 3 月 9 日(金)、10 日(土) 4 月号校正(海老原美夫、大坂幸男、喜多峻次、桜庭勇、藤掛保司)。
- 3 月 18 日(日) 役員会議(司会:橋口長和、行事予定の変更・その他)。
- 3 月 19 日(月) 4 月号発送(倉林宗太郎)。

編集後記

3 月号から表紙右上のシラコバトの表情が変わったことに気付きましたか。コピーにコピーを重ねて塗りつぶした真っ黒目になっていたものを、もとの二重まぶたのパッチリ目に戻しました。名刺などに使うときは、パッチリ目がお勧めです。(山部)

しらこぼと 2001 年 5 月号(第 205 号) 定価 100 円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉支部 郵便振替 00190-3-121130
〒336-0012 埼玉県さいたま市岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階
(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608
本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社